

つくる動作を実地に観察することは困難であつた。1948年 Peters は、中枢興奮剤をクモに与えてクモの造巣を早めて、明るいうちに観察し、撮影出来るようにする計画を立てた。しかし薬物によつてクモの巣をつくる時刻を早めたり、遅らせたりすることは結局不成功に終つたが、副所見として薬物の影響によつて巣の構造に顕著な不規則性が現われることを知つた³⁾。この現象をなおよく観察すると個々の薬物に対してそれぞれ特有の網の形が現われることが判明し、遂には Tübingen 大学薬理学教室において、クモの巣の作り方を以て中枢神経に作用する薬物の試験をするに至つた。

実験方法

動物としては、中欧で極めてしばしばみられるクモ *Zilla-x-notata* Cl. を用

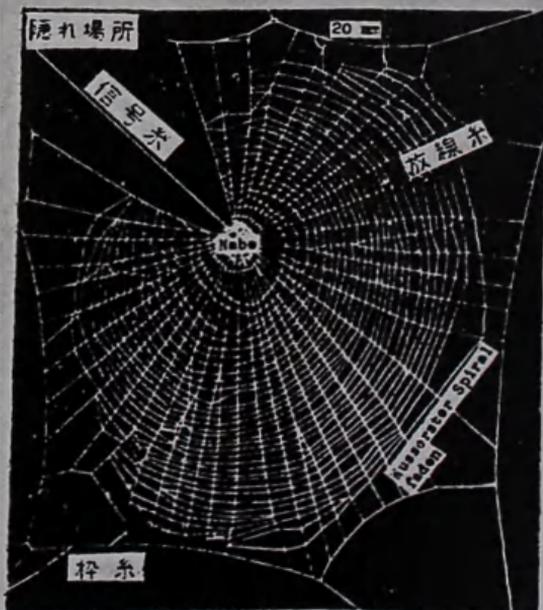


図1 *Zilla-x-notata* Cl. の正常の巣